



操作方法の解説

2013. 5. 10

1. 建物概要入力シート

この白抜き部分に、適宜文字や数字を入力してください。

■建物概要

物件名

建築地

屋根勾配

積雪地域

雪止め

1階床高さ

階高

1階

最高高さ

見付面積

X方向

Y方向

(m2)

屋根

2階

1階

1階の短辺最大長さ

mm

見付面積について

屋根勾配

積雪地域

雪止め

1階床高さ

階高

2階

1階

mm

1.5

2

3

3.5

4

5

6

7

mm

入力方法は、キーボードで自由に入力する場合と、リストから選択する場合の2種類の方法があります。

階高

2階

mm

1階

mm

最高高さ

mm

見付面積

X方向

Y方向

(m2)

屋根

2階

1階

1階の短辺最大長さ

mm

見付面積について

モジュール

mm

1階床面積

m2

2階床面積

m2

延床面積

0 m2

バルコニー床面積

m2

1階水平投影面積

m2

2階水平投影面積

m2

吹抜け面積

m2

水平投影面積とは？

地盤の種類

地震地域係数Z

地表面粗度区分

基準風速

m/s

ちくせつきツール DF2 Ver 300+ Ewls

Copyright(C)20125 110% Architectural design room

このマークをクリックすると、

一つ前の画面に戻ります。

※建物重量の算定シートも、建物概要入力シートと同じ入力方法です。

2. 固定荷重の入力シート

この白抜き部分に、適宜文字や数字を入力してください。

■固定荷重の入力

部位

仕様

N/m²

入力結果

屋根

屋根

軒天

天井

外壁

内壁

2F床

1F床

屋根葺き材

防水紙

野地板

下地

仕上げ

下地

仕上げ

断熱材

下地

仕上げ

断熱材

下地

仕上げ

床板下地

根太下地

断熱材

下地

仕上げ

床板下地

根太下地

断熱材

屋根

母屋

小屋梁

野縁+母

母屋

下地

軒天(軒先側)

■固定荷重一覧表

部位

仕様

荷重(N/m²)

I 屋根

A 屋根葺き材

① 瓦葺き(葺き土無し)

② 瓦葺き(葺き土有り)

③ 波型鉄板葺き

④ 連続板葺き

490 ※1

830

50

90

3. 基礎形式の選定シート

色が付いている部分に、キーボードで数字を入力してください。

基礎形式の選定

1 地盤の長期許容応力度 q_a の算定

SWS試験回転数の入力

1m当たり半回転数New(回)

調査ポイント

No1

No2

No3

No4

No5

深さ(cm)

50

75

100

125

150

175

200

250

最小値

0

0

0

0

0

■SWS試験の回転平均値New

0

回転

$q_a = 30$

KN/m²

地盤の許容応力度の算定

$Q_a = 30 \times 0.6 \text{ New}$

2 基礎形式の選定

選定

q_a

基礎仕様

-

$q_a < 20 \text{ KN/m}^2$

基礎杭を用いた構造、又は、べた基礎

-

$20 \leq q_a < 30 \text{ KN/m}^2$

基礎杭を用いた構造、又は、べた基礎、又は、布基礎

●

$30 \leq q_a$

上記の他、土台を鉄けず柱を基礎に繋結する形式、又は、平屋建てで土台を除かず、足固めを使用して柱の下部と土台を一体化するようつなぎ、地盤に礎石等を敷き並べ柱を礎石上に立てる形式

4. 基礎の検討シート

一色が付いている部分に、キーボードで数字を入力してください。

べた基礎の検討
 長期有効耐力の算定

建物重量 $\#N/A$ kN
 基礎重量 0.00 kN
 建物平面形状 mm

斜管重量の考慮 0

基礎梁検討用スパン' = mm
 (基礎梁上に立つ柱と柱の間隔の最も大きい箇所の寸法)

挑中梁の長さのチェック

検討する外部基礎梁 mm
 検討する内部基礎梁 mm

基礎梁 本数 呼び名 断面積 mm^2
 上端主筋 32φ mm^2
 下端主筋 12φ mm^2

立ち上がり幅 (mm) mm
 基礎立ち上がり mm
 仮盛厚さ mm
 掘入れ深さ mm

長期 外周部 $\#N/A$
 内部 $\#N/A$
 短期 外周部 $\#N/A$
 内部 $\#N/A$

あばら筋 mm
 あばら筋上の2φ以上 $\#N/A$

底盤天端 = 設計GL + 50 mm
 鉄筋かぶり厚さ $\#N/A$ mm
 底盤主筋 mm 配筋
 鉄筋有効断面積 mm

スラブリ配筋 0 $\#N/A$ mm

告示等で定められたべた基礎の構造
 (最低限度守らなければならない仕様)

図はべた基礎の場合です。布基礎も入力方法は同じです。

布基礎の場合は、このマークをクリックすると、印刷用画面に移動します。—

べた基礎の検討結果の印刷

底盤天端=設計GL+
50 mm

鉄筋かぶり厚さ
鉄筋有効断面積

鉄筋有効断面積
mm2

スラブ配筋

0 @鉄筋/A mm

底盤主筋 配筋

鉄筋有効断面積

mm2

印刷したい基礎梁を選択してください。

—梁符号を適宜入力してください。

検討結果の印刷用画面

適宜印刷してください。

基礎梁			
部位	基礎梁		
符号	FG1		
基礎梁検算用スパン		0 mm	
安全率	0.0		
設計基準強度 F_c		0 N/mm ²	
スラブ形状	長辺	0 mm	
	短辺	0 mm	
スラブを基準にして、囲んでいる基礎梁の検算を行う			
検算する位置	外周部		
基礎梁の幅	0 mm		
基礎梁のGLからの高さ	0	mm	
基礎梁のGLからの根入れ深さ	0	mm	
仕様			
	主筋 上部	0	0
	下部	0	0
	あばら筋	0 @	0 mm
検算結果			
	主筋 上部	長期	#N/A
		短期	#N/A
	下部	長期	#N/A
		短期	#N/A
内容			
	基礎梁せいり	長期	0 mm
		短期	0 mm